

1 本校の実態

【第4学年】

国語科においては、漢字の読み書きが不十分な児童が2割程度いる。また、説明的な文章の読みと活用問題の理解に課題が見られる。算数科においては、4割程度がかけ算、重さについての理解が不十分などところがある。活用問題で正答率が全体的に低い様子が見られた。国語・算数ともに家庭学習の習慣を身に付ける必要がある。

【第5学年】

国語科においては、3割程度の人が基本的な漢字の理解が不十分である。また、説明的な文章などを読むことに課題が見られる。算数科においては、面積、体積、角についての理解が不十分である。整数の計算においても苦手としている傾向が見られた。改めて理解を図る必要がある。国語・算数ともに家庭学習の習慣を身に付ける必要がある。

【第6学年】

国語科においては、3割程度の人が基本的な漢字の理解が不十分である。また、文学的な文章を読むことや活用問題に課題が見られる。算数科においては、割合・百分率の問題で正答率が全体的に低い様子が見られた。国語・算数ともに家庭学習の習慣を身に付ける必要がある。

2 本校の取組方針（「はちおうじっ子ミニマム」の定着に向けた取組を含む）

- ドリルやプリントなどで習熟を行い、基礎学力の定着を図る。
- 月に1回程度、3・4年生の学力向上を目的とした「チャレンジスタディ」を行う。
- 「ベーシックドリル補習」は月1回程度、木曜日の放課後に「子どもと向き合う時間を設定し、3年生以上の補習の補助に入る。
- 各学期の終わりに2日間、午後をカットして全学年「算数補習」を設定する。少人数の児童に対し、教員複数名で各日1時間程度の補習を行い、基礎学力の定着を図る。

3 具体的な取組内容（「はちおうじっ子ミニマム」の確実な定着に向けた取組が分かるように記載）

<p>【校内体制】 「チャレンジスタディ」は各学級で実施。ベーシックドリル補習は、全教員が複数体制で児童の指導を行う。</p> <p>【取り扱う内容】 各学年で身に付けるべき内容の他、各学年で正答率の低い問題を確実にできるようにする。</p>	
第4学年	<p>【チャレンジスタディ】【算数補習】【ベーシックドリル補習】 学習用端末のドリル型コンテンツや東京ベーシックドリル等を活用するなどして、基礎・基本の定着を図るようになる。また、家庭学習が不十分な子は、家庭等の協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。</p>
第5学年	<p>【算数補習】 基本的には、子に応じて理解が不十分な内容を扱うようになる。必要に応じて、東京ベーシックドリル等も活用して、基礎・基本の定着を図るようになる。また、家庭学習が不十分な子は、家庭等の協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>【ベーシックドリル補習】 習熟を図るため、基礎学力の定着を図る。</p>
第6学年	<p>【算数補習】 基本的には、子に応じて理解が不十分な内容を扱うようになる。東京ベーシックドリル等を活用しながら、基礎・基本の定着を図るようになる。基本的な総合問題も扱うようになる。</p> <p>【ベーシックドリル補習】 習熟を図るため、基礎学力の定着を図る。</p>